

なりたい素肌の鍵は、基剤選定で決まる

化粧品は、基剤と保湿成分、抗酸化成分、その他の有効成分や薬用成分でできています。化粧品会社が製造・販売する乳液、クリーム、美容液、スペシャルアイテムや、医師が処方する軟膏やクリーム、ローションなどを正しく使用しても肌トラブルが改善されず、むしろ悪化するケースがあるという現実があります。このような製品では、美しい素肌、皮膚老化の防止、そして化粧映えする肌を実現できません。

この問題の一因として、化粧品や薬用化粧品の基剤が大きく影響していると考えます。基剤(ベース剤)は、これら製品の重要な構成要素であり、保湿成分、抗酸化成分、その他の有効成分や薬用成分が肌に均一に届くようにするための媒介ですが、同時に皮膚バリアにとって良くない成分が含まれています。皮膚バリアにとって良くない成分を使わないことが、「肌トラブルを改善する」「美しい素肌、皮膚老化の防止、そして化粧映えする肌を実現する」ための鍵です。

例えば、一般的な主たる基剤は「水」ですが、それ以外の基剤には「肌に膜を張る石油から生成されたオイル」や「合成界面活性剤」が含まれていることが多く、これらが皮膚バリアを破壊し、炎症や乾燥を引き起こします。

化粧水の基剤は、水です。水になじみやすい水溶性の保湿成分、抗酸化成分、その他の有効成分や薬用成分を配合して作られます。「肌に膜を張る石油から生成されたオイル」や「合成界面活性剤」が含まれていることはほとんどないため、これらが皮膚バリアを破壊し、炎症や乾燥を引き起こすことは稀です。

しかし、乳液、クリーム、美容液、スペシャルアイテムや、医師が処方する軟膏やクリーム、ローションなどのエマルジョン化粧品の場合、基剤には「肌に膜を張る石油から生成されたオイル」や「合成界面活性剤」が含まれていることが多く、これらが皮膚バリアを破壊し、炎症や乾燥を引き起こします。

「水」「鉱物油」「合成界面活性剤」以外の基剤には植物油があります。その場合の植物油には、抗酸化作用のあるオリーブオイルやホホバオイルなどが使われます。しかし、これらの植物油の主成分は酸化しにくいオレイン酸などの脂肪酸が多く含まれ、肌に浸透すると細胞間脂質のセラミドと結合し、皮膚バリア機能を低下させます。

リノール酸以外の脂肪酸がセラミドと結合すると皮膚バリア機能が低下するという科学的事実をほとんどの方は知りませんが、この事実は皮膚科学の常識です。これで、海の森化粧品がなぜ、リノール酸含有の合成界面活性剤不使用のエマルジョン化粧品にこだわるのかが分かるかと思います。